

ヒラメ釣獲試験について

水産総合研究所 資源管理部 主任研究員 吉田雅範

ヒラメは青森県沿岸の全域で漁獲され、本県太平洋海域では刺し網、定置網、釣り及び底曳網で漁獲される重要な魚種です。しかし本県太平洋南部海域では、秋季に刺し網により非常に多くの小型のヒラメが混獲されますが、漁法の性格上、小型魚の再放流が難しいことから、資源管理上問題となっています。このため資源管理方策の一つとして、へら曳き釣りによるヒラメの釣獲試験を実施し、釣り漁法への転換の可能性を探ることにしました。

平成 19 年と 20 年に本県太平洋南部海域の漁業者にへら曳き釣りによるヒラメ釣獲試験を実施してもらいました。2 年間ご協力していただいた漁業者 4 人 (A、B、C、D) の 1 日当たりの漁獲金額の推移を図 1 に示しました。漁業者 A、B の 1 日当たりの漁獲金額は月を追うごとに増加し、漁業者 A は試験最終月に 9,000 円/日を越えましたが、ヒラメ釣り専業漁業者 E には及びません。釣りで漁獲されたヒラメはほぼ全数を活魚で出荷できるうえに、刺し網の活魚よりも単価が高く、刺し網から漁獲物を取り外す手間も省ける等のメリットがあります。現在使用している刺し網漁具の耐久年数が過ぎた時に、釣獲技術が向上していれば、刺し網を廃業し、釣りへ転換する漁業者が現れるかもしれません。

これまでの調査結果から、浅い水深では漁獲尾数は多く、漁獲サイズは小さいことが分かっています。漁業者は最終的に燃料代等の諸経費、漁獲量及び単価を考慮して、漁業を営むので、漁業者が操業水深を決定するうえで参考となるように、ヒラメ 1 尾あたりの単価を算出してみました (図 2)。予想していた以上に小型魚の価格は安く、8 月では全長 45cm のもの 1 尾と全長 30cm 未満のもの 10 尾分とが同程度の金額でした。

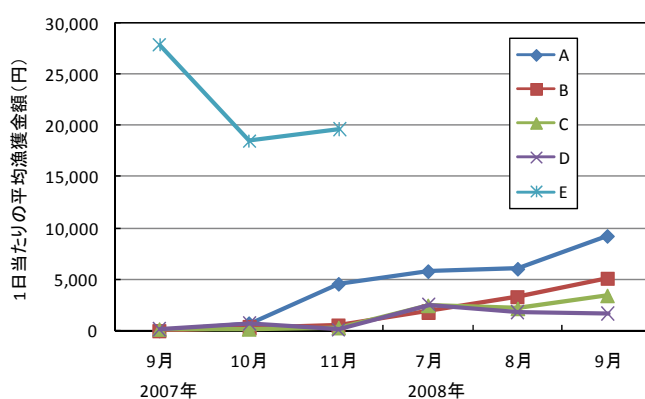


図 1 1日当たりの平均漁獲金額の推移

* 全長から体重を下記の式により推定し、三沢市漁協の活魚 (または一本釣り活魚) の銘柄別単価を乗じることで漁獲金額の推定を行った。

$$BW = 7.647 \times 10^{-3} \times TL^{3.05834}$$

BW: 体重 (g)、TL: 全長 (cm)

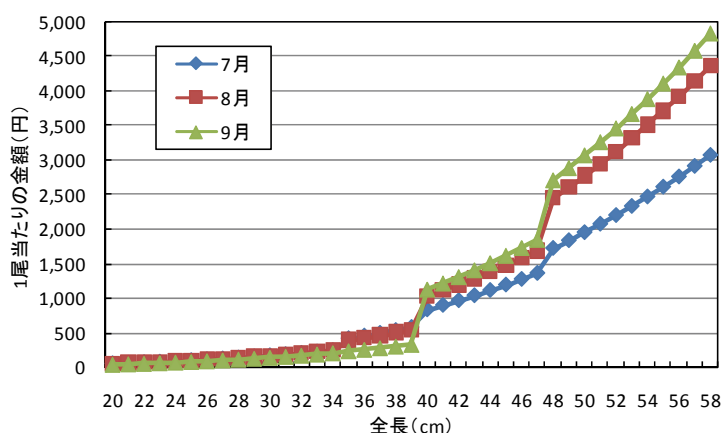


図 2 ヒラメ 1 尾の金額

* 平成 20 年三沢市漁協一本釣り活魚の月平均銘柄別単価を基に算出した。